

竹取新聞

株式会社 カグヤ
東京都新宿区西新宿3-2-11
新宿三井ビルディング
2号館10階



第95版

理念と実践で
絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一主義」の理念をカグヤクルーの日々の出来事からの内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦ください。よろしくお願いいたします。

見守る専門性

熊本県にある城山保育園の先生方に保護者面談の疑似体験をするワークショップを行っていただきました。

まずは「普段通りに行ってみてください」とお伝えし、保護者面談をしていただく、先生方は、『ミモリングソフトウェア』から抽出される『保育カルテ』を印刷したものを

使い、その子が5領域それぞれにどんな育ち(発達)があったのかをお伝えしていました。性格や個性などの「変わらないもの」ばかりを伝えるのではなく、「日々」育ち変わりゆく「発達」という側面からも保護者に伝えていく姿はとても頼もしく、専門性にあふれた面談でした。

親は子どものことをよく見ていますが、その子の発達と個性の見分けが難しく、その子をどのようにして受容してあげばいいのか、どのようにして

見守ってあげればいいのか、が分かりづらいたくあります。そんな時、先生方のように個性と発達をそれぞれにお話しただけだと、個性を受け入れ、発達に寄り添っていただけるように思います。



【保育カルテ】
子ども親も先生も、みんなで育ちを喜び、味わえる場づくりを目指して。

また印象的だったのは、先生方がワークショップを通して保護者の立場に立ち、自分たちがどう改善していけばいいのかと気づきを共有していたことです。先生方のように、子どもや大人と分けず、寄り添いながら「育ち」と「個性」の豊かさを味わえる場づくりを私たちも大切にしていきたいと思えます。

積み上げる安心感

ここ数年で園のホームページは、保護者や地域の方々へ情報を掲示する「モノ」から、理念や思いをブログで発信したり、それを読み合い職員同士の学びとする「仕組み」へと変わりつつあります。

そんな中、東京都にある佼成保育園様は2010年5月からブログの更新を開始され、今年で8年目を迎えられました。毎日休まず更新され続けてきた先生方の実践の重みは、バックナンバーの一覧の長さからも十分に伝わってきます。現在更新されているブログを拝見すると、子どもたちの活動の様子だけでなく、そこから先生方が何に気づき、自分たちを省みて次にどう活かしていきたいかなどが書かれています。それが園の全クラス(アチーム)でそれぞれに書かれているため、そのボリュームがそのまま園の保育

の厚さのようにも感じられました。先生方が日々どのようなまなざしで子どもたちを見守っているのか、写真と文章がそれを物語っています。開始当初のブログでは発信は1クラスのみ、文章も今よりシンプルなものであり、やはりこの7年間の変遷があつての今の姿なのだと感じ、積み上げる安心感、そして着実に子どもたちのために実践を継続されてきた先生方に尊敬の念が湧いてきました。

「本物は続く、続けると本物になる」の言葉のように、私たちも大切なものを守り続ける為に理念実践を積み上げていきたいと思えます。



時代の先駆けとも言える園の実践。何事も一朝一夕にはいかないので、今、舵を切ることが大切だと感じます！

学びの宝庫

本誌前号に引き続き、臥竜塾年間講座についてです。文字・数・科学について順々に学んでいく講座で、第2回目となる今回は「数」について学んでいきました。

今回は新宿せいが子ども園の日常保育シーンで見られた子ども同士の数にまつわるエピソード事例から、小学校以降にどうつながっていくかを学んでいきました。

一例として、「あと2回寝れば遠足」とタイトルをつけた事例では、土曜日に予定していた遠足ですが大雨の予報。そのため金曜日に雨のため日曜日に延期になることを伝えると、「あと2回寝たら遠足だね!」と返答した子がいたそうなんです。

日常の中で数を学び、親しんでいる事例を数多くお聞きし、園生活はまさに学びの宝庫だと感じました。

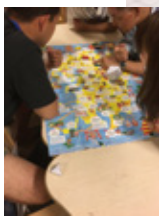
好きな先生の授業だけ高得点が取れる不思議な方程式があるように、「苦手だった数学も臥竜塾講座で学ぶと面白い!」そんなことを感じました。

新宿せいが子ども園の先生方の楽しむ力は、大人をも虜にしています。そんな講座の1コマから普段の保育のワンシーンを見たように感じました。

私たちが先生方のように、自分たちが面白がって学んでいく遊び心を大事にしていきたいと思えます。



右) 講座で作った正20面体のサイコロ
左) 3つのさいころを使ったオリジナルルールですごるく!



CCN Caguya Company News カグヤニュース

※カグヤでは、クルー同士別々の場所においても、互いの気持ちや様子が共有できるよう、「カグヤニュース」という社内報を毎日メール配信しています。ここでは、その中から一部を抜粋して、日々の実践をご紹介します。

命輝く

福岡県にある古民家「聴福庵」では、行く度に掃除や修繕を行ったり、昔の家具や道具を集め、それら道具や炭などを使っての暮らしや年中行事をしたりして…ある意味一年とは思えない速さで再生が進んでいるのを感じます。

昨年、初めて聴福庵で過ごした頃は、私たち人も道具も家屋も庭も…どこかよそよそしく違和感があり、普段と違う暮らしにも慣れず、炭でお湯をわかすことさえ「苦労」でしたが、今は宿泊のお客様を、料理と共に迎え入れる程



炭を使ったせいろ料理やかまどご飯と…炭三昧のおもてなし♪



廃棄されそうな小学校の椅子も座布団や背カバーをつけ活用。



昔、クルーのおばあ様が描いた墨絵も、実家の物置から復活!



お客様にも、帰る前には、必ず何かを磨いて頂きます。

に変化し、いつのまにか色々と馴染み、調和してきているのを感じます。
また、ここに集まるモノが幸せそうに見えるのも印象的で「古いモノを後世に」と、文化財として保存・展示するのでも大事ですが、やはりこうして実際の暮らしの中で使われ、活かされ、役立つことで、命が復活し輝いて見えるのです。
日本には「もったいない」という特有な言葉、考えもありますが、人も自然もモノも命はみんな同等。聴福庵を通して、これからも命が輝き合えるような生き方を磨いていけたらと思います。

自然主導

今年の田植えは、カグヤクルーの友人2名と、田植えをご一緒させていただいているサンズ様からの、合わせて6名もの初体験者を含めた総勢11名。

曇天の中、ピクニック気分です。田植え開始です。出だしは順調。笑い声が響きます。ところが想像以上の重労働に、次



初めての体験に最高の笑顔と笑い声が飛び交います♪



雨が本降りになる中、黙々と…これも自然からの恵みです。

第に声はなくなり、それに呼応してか、時折ちらつく程度だった雨粒はどんどん大きくなり、気温まで下がりはじめたのです。それでも止められないのが自然相手。田植えの時期としては既にギリギリで、今日を逃せばせっかく実った稲穂も、秋に気温が急に下がって成熟しない可能性もあるのです。実は前日の天気予報では曇りのち雨。藤崎農場様への事前確認で「利根川が氾濫しない限り雨天決行」と言われていたのです。
自然から命をいただく厳しさを、身をもって知る今回の体験は、人の営みが自然主導のもとにあることを改めて実感する機会でもありました。

子どものいる職場

先日、弊社が以前からお世話になっているイラストレーターさんが、1歳のお子さんを連れてご来社下さいました。お昼ご飯と一緒に食べましたが、驚いたのはその小さな口で好き嫌いなくなんでもおいしそうに頬張る姿…これは大人も見習わなければいけない姿ですね。
そしてお腹がいっぱいになったら社内をお散歩♪みんなに笑顔振りまく愛らしい姿に心を奪われ…クルーも自然と笑顔になります。

一期一会庵

「古くても新しい」

先日、保育環境研究所ギビングツリーの藤森代表と日本の保育について話し合う機会がありました。その際、藤森代表は「異なった文化の人たちが如何に協力するか、世界と和していくことが日本をよくすることだ。」と仰っていたのが印象的でした。

私たちのいる日本は大震災や大災害があったときいつも世界から称賛される報道が流れます。それは見事なほどに他者を思いやり一人ひとり自制し、他を受け容れ、穏やかにみんな助け合う姿を見ることができるところです。他国では、同じことがあれば略奪や混乱などが発生しても日本にはならないとも言われます。私はこれは日本の保育文化と歴史の結晶ではないかと感じます。

私たちはみんな日本人として生まれていますが、世界の中にある日本として何を世界に向けて発信していけばいいかこの時代を生きる私たちは真摯に考えなければなりません。世界に発信といえ、日本の禅を世界へ拡

会話をするわけでもなく、子どもと目線を合わせ、その探求心を見つめているだけで社内にはゆたかりとした時間が流れます。大人が癒されるだけでなく、子どもが憧れる職場環境を考える上でも、子どもが社内にいることは自然であり必要なのだと感じた「小さなお客様」のご来社なのでした。



最後は女子会ショットで♪またのご来社をお待ちしています!

めた仏教学者の鈴木大拙氏は生前にこう仰っていたといっています。

『日本を世界のうちの1つのもの、としなければいかん。今、日本が、日本がと、やたらに言うようだが、日本というものは世界あつての日本で、日本は世界につつまれておるが、日本もまた世界をつんでおるといふこと、これは、スペースや量の考えからは出てこない。そのように考えるためには1つの飛躍が必要とされる。その飛躍が大事なのだ』

飛躍が大事とは、まったく新しい世界にいくような発想の転換が大事であるということでしょう。引き続き、日本の保育を見直しながら子ども中心の保育を楽しく豊かに伝道伝承していきたく思います。

編集後記

今月もご覧いただきまして、誠にありがとうございました。子どもたちに伝承していききたい梅雨ならではの過ごし方を、この時期に探してみたいと思います。皆さま、どうぞお身体にお気をつけてお過ごし下さいませ。

カグヤは「子ども第一主義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます。



本社
〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-2-11
新宿三井ビルディング2号館10階
tel.03-5909-7155
fax.03-5909-7199

カグヤウェブセンター
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17
東京堂神保町第3ビルディング8階
tel.03-3518-6217
fax.03-3518-6218

フリーダイヤル 0120-917-389
URL: <http://www.caguya.co.jp>
E-mail: support@caguya.co.jp
受付時間 月～金 9:00～18:00
(土・日曜祝祭日を除く)